



クイック検索

検索

目次

Copyright © 2014 NTT DATA INTRAMART
CORPORATION

目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 前提条件
 - 2.3. 対象読者
 - 2.4. 用語解説
- 3. セットアップの概要
- 4. セットアップの流れ
- 5. ミドルウェアのセットアップ
 - 5.1. データベース
 - 5.2. Web Application Server
 - 5.3. Apache Cassandra
 - 5.4. Apache Solr
- 6. WARファイルの作成
 - 6.1. プロジェクトの作成とモジュールの選択
 - 6.2. 設定ファイルの編集
 - 6.3. WARファイルの出力
- 7. Web Application Server の起動
- 8. WARファイルのデプロイ
- 9. テナント環境セットアップ
 - 9.1. システム管理者情報
 - 9.2. テナント情報
 - 9.3. テナント環境情報
 - 9.4. テナント管理者情報
 - 9.5. LDAP連携・設定
 - 9.6. ログインセッション管理
 - 9.7. Apache Cassandra接続情報
 - 9.8. Apache Solr接続情報
 - 9.9. 登録
- 10. アンインストール
 - 10.1. WARファイルのアンデプロイ
 - 10.2. アプリケーションの削除
 - 10.3. Storage領域の削除
 - 10.4. ミドルウェア製品の削除

次は、「[はじめに](#)」へ進みます。

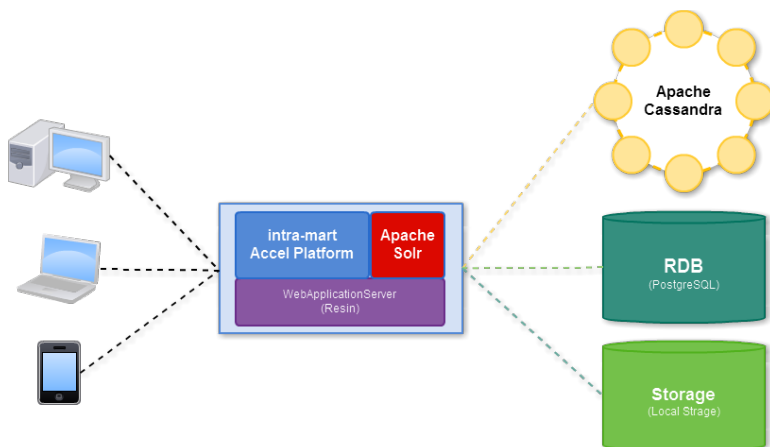
改訂情報

変更年月日	変更内容
2014-01-01	初版
2014-04-01	第2版 下記を追加・変更しました 目次構成を改善しました。
2014-08-01	第3版 下記を追加・変更しました 「テナント環境セットアップ」の各ウィザードページに説明を追記 「Apache Solr」に「Solr管理者ガイド」へのリンクを追加
2014-12-01	第4版 下記を追加・変更しました。 「ログインセッション管理」の設定方法を追加 「全文検索機能 (IM-ContentsSearch) の設定」の設定方法を追加 「テナント環境情報」に「グローバルナビ最大表示数」を追加
2015-04-01	第5版 下記を追加・変更しました。 「JDBCドライバ」内の PostgreSQL 9.3 から PostgreSQL 9.4 に変更
2015-09-30	第6版 下記を追加・変更しました。 「Web Application Server」に、Resin の jvm_args の指定内容を修正

はじめに

本書の目的

本書では 簡易的に intra-mart Accel Platform をセットアップする手順について説明します。
 はじめて intra-mart Accel Platform をセットアップする対象者向けのセットアップ内容です。



コラム

- ・セットアップする intra-mart Accel Platform はスタンドアローン構成(最小構成)です。
- ・Apache Cassandra・Apache Solr は任意でセットアップ可能です。

前提条件

- リリースノートに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。
 詳細は「[リリースノート](#)」-「[システム要件](#)」を参照してください。



コラム

TRY版利用などの場合、上記リリースノートのサーバ要件にあるOSでなくてもセットアップは可能です。
 intra-mart Accel Platform が動作する前提として、**JDK** がサポートされているOSであれば動作可能です。
 例として、Windows 7 環境にセットアップを行うことが可能です。

- 本書でセットアップする環境とWebブラウザでアクセスする環境など、すべて同一筐体(ローカル環境)で行います。

対象読者

以下の利用者を対象としています。

- はじめて intra-mart Accel Platform をセットアップする方



コラム

詳細なセットアップ内容については、「[セットアップガイド](#)」を参照してください。

用語解説

Resin をインストールしたディレクトリを %RESIN_HOME% と略します。
Storage として使用するディレクトリを %STORAGE_PATH% と略します。
PublicStorage として使用するディレクトリを %PUBLIC_STORAGE_PATH% と略します。

次は、「[セットアップの概要](#)」へ進みます。

セットアップの概要

- セットアップの概要は次の通りです。

1. ミドルウェアをセットアップします。

セットアップの対象は、JDK、データベース、Resin、Apache Cassandra、Apache Solr です。



注意

IMBox を利用しない場合、Apache Cassandra のセットアップは必要ありませんが、必ず IMBox モジュールを外す必要があります。詳細は、「[IMBox モジュールを外す方法](#)」にて説明します。IMBox モジュールが含まれていると、セットアップの途中で Apache Cassandra への接続エラーが発生します。



注意

IM-ContentsSearch for Accel Platform を利用しない場合、Apache Solr のセットアップは必要ありません。

2. IM-Juggling を使用してWARファイルを作成します。



コラム

WARファイルとは？

JavaEEで定義されている Web Application Archive ファイルで、intra-mart Accel Platform の動作に必要な各種ファイルが格納されています。intra-mart Accel Platform 用のWARファイルの作成は IM-Juggling にて行います。intra-mart Accel Platform の動作に必要な各種ファイルが格納され、IM-Juggling にて作成されたWARファイルを Resin などの Web Application Server に配置(デプロイ)して、Web Application Server を起動することにより、WARファイルに格納された intra-mart Accel Platform 自体や intra-mart Accel Platform に対応した各種アプリケーションが起動され、利用することができます。

WARファイルは intra-mart Accel Platform 製品自体の最小単位となるため、intra-mart Accel Platform のライセンスはWARファイル単位でカウントします。

3. 作成したWARファイルを、Web Application Server (Resin) 上にデプロイ(展開)します。
4. ブラウザからアクセスし、テナント環境セットアップ(データベースへのデータ投入など)を実行します。

次は、「[セットアップの流れ](#)」へ進みます。

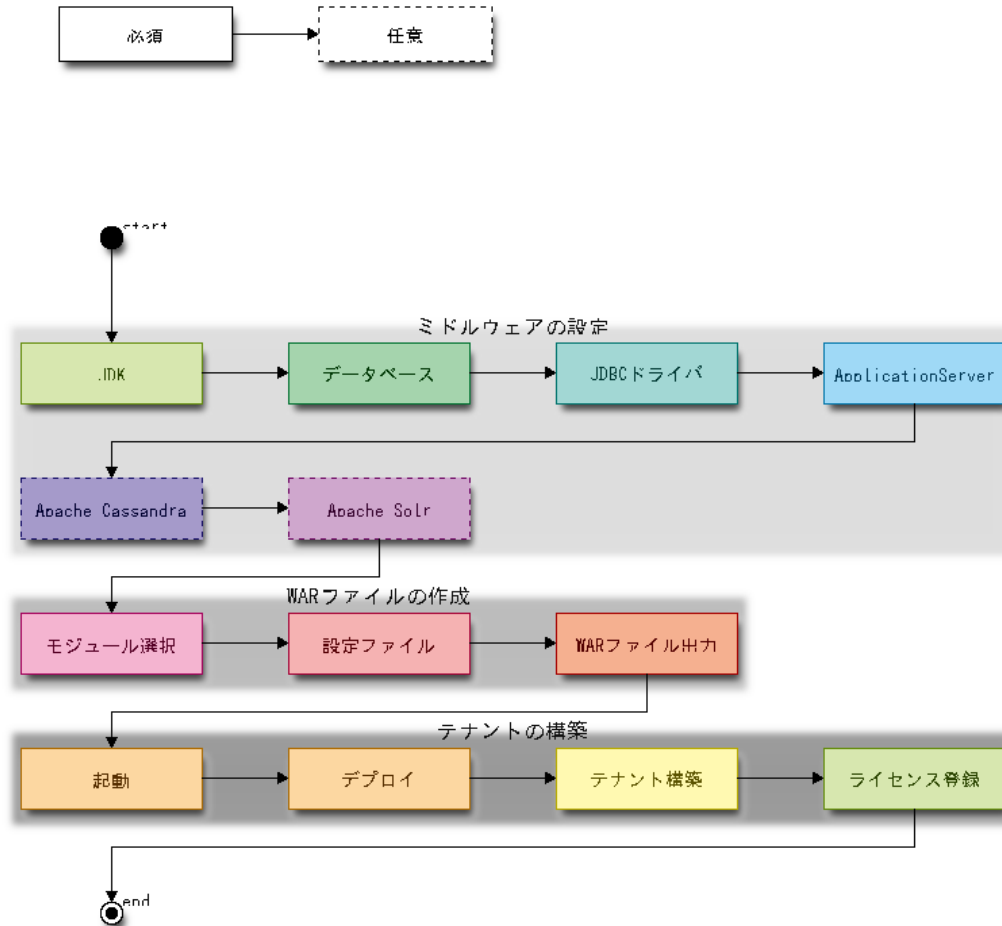
セットアップの流れ

セットアップの手順は次のフローチャートの通りです。
各ステップごとのセットアップ手順は一覧のリンク先を参照してください。

- 凡例

必須・・・セットアップが必要な項目です。

任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。



Name	Description
start	
JDK	JDK
データベース	データベースサーバ
JDBCドライバ	JDBCドライバ
ApplicationServer	Web Application Server
Apache Cassandra	Apache Cassandra
Apache Solr	Apache Solr
モジュール選択	WARファイルの作成 - プロジェクトの作成とモジュールの選択
設定ファイル	WARファイルの作成 - 設定ファイルの編集
WARファイル出力	WARファイルの作成 - WARファイルの出力
起動	Web Application Server の起動
デプロイ	WARファイルのデプロイ
テナント構築	テナント環境セットアップ
ライセンス登録	ライセンスの登録
end	

ミドルウェアのセットアップ

intra-mart Accel Platform のセットアップに必要な以下のインストールおよび設定を行います。

データベース

データベース のセットアップに必要な以下のインストールおよび設定を行います。

データベースサーバ

項目

- PostgreSQL の構築例

PostgreSQL の構築例

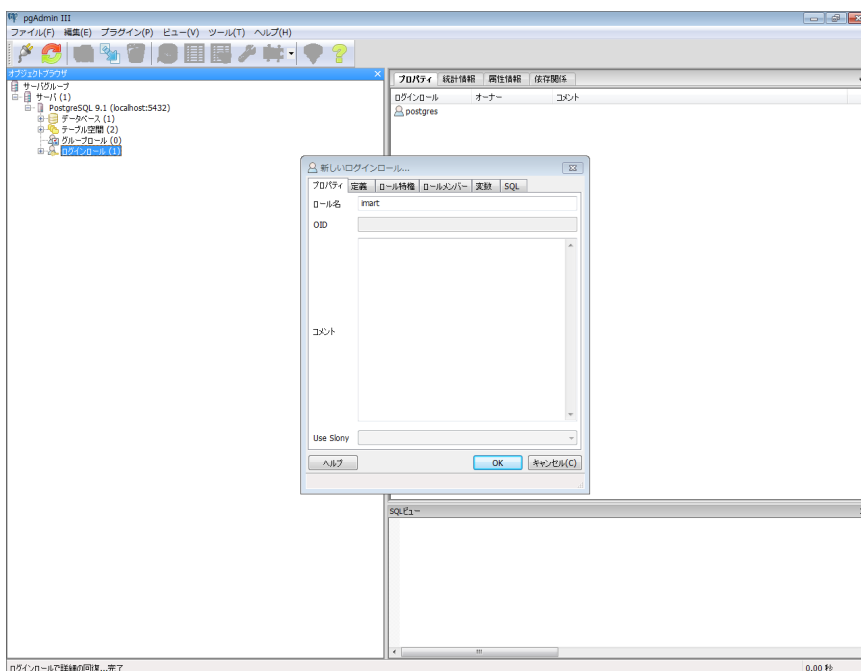
本書では、PostgreSQL を利用します。

PostgreSQL のインストール

- PostgreSQL は次のURLよりダウンロードできます。
環境に適したものをダウンロード後、インストールを行ってください。
<http://www.enterprisedb.com/products-services-training/pgdownload> (English)
PostgreSQL 9.4 (32bit) の場合は、<Win x86-32> をクリックします。
PostgreSQL 9.4 (64bit) の場合は、<Win x86-64> をクリックします。

データベースとログインロールの作成

1. pgAdmin ツールを起動します。
2. ログインロールの作成
「オブジェクトブラウザ」から、「ログインロール」を右クリック、「新しいログインロール」をクリックします。
サブウィンドウが表示されます。



次の項目を入力し「OK」をクリックします。

プロパティタブ

「ロール名」(任意)

定義タブ

「パスワード」(任意)



コラム

本書では、例として次の内容を指定します。

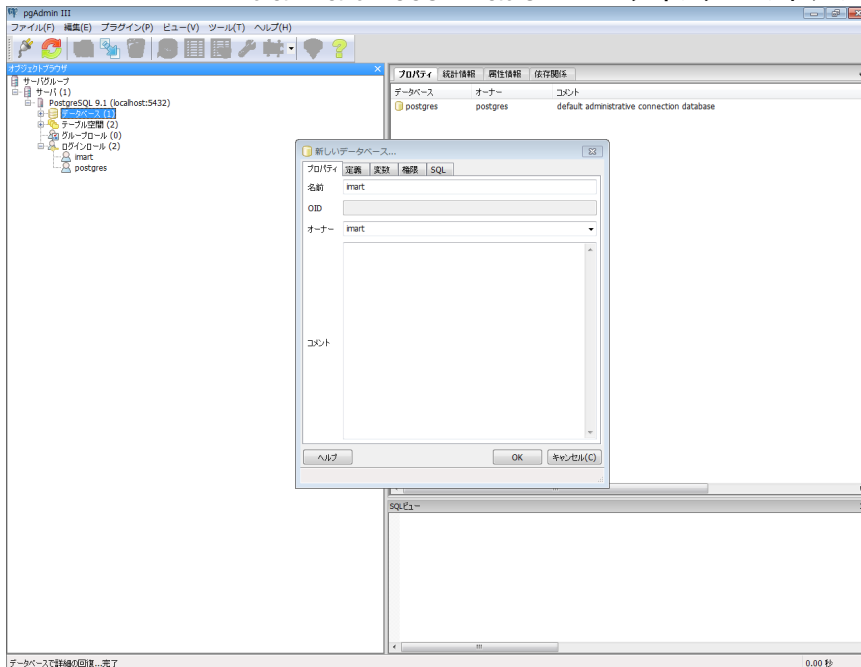
ロール名「imart」

パスワード「imart」

3. データベースの作成

「オブジェクトブラウザ」から、「データベース」を右クリック、「新しいデータベース」をクリックします。

サブウィンドウが表示されます。



次の項目を入力、選択し「OK」をクリックします。

プロパティタブ
 [名前](任意)
 [オーナー](上記「2. ログインロールの作成」で作成したログインロール)

コラム

本書では、例として次の内容を指定します。

名前「iap_db」

オーナー「imart」

次は、「[JDBCドライバ](#)」へ進みます。

JDBCドライバ



注意

intra-mart Accel Platform が利用するJDBCドライバは **JDBC 4** です。JDBC 4.1 は未検証となります。

1. PostgreSQL のJDBCドライバは以下のURLよりダウンロードできます。
 PostgreSQL 9.4 の場合は、<postgresql-9.4-1201.jdbc4.jar> ファイルを入手します。
<https://jdbc.postgresql.org/download/postgresql-9.4-1201.jdbc4.jar>

次は、「[Web Application Server](#)」へ進みます。

Web Application Server

項目

- Resin の入手
- インストール
- Resin の設定
- JDBCドライバの配置

Resin の入手



コラム

TRY版利用などの場合、Resin は次の「TRY版ダウンロードサイト」からダウンロードできます。

http://www.intra-mart.jp/support/try_j.html

※アンケートへのご記入後、遷移後のページより下記をダウンロードをしてください。

→Caucho Resin (アプリケーションサーバ)

Resin4.0.44.zip (Windows)



コラム

製品版DVDの場合、次のディレクトリに同梱されています。

%製品版メディアイメージ (DVD) %/Products/tools/iap/Resin ディレクトリ

→resin-pro-4.0.44.zip

インストール

メディアに同梱されている <Resin> アーカイブファイルを任意のパスに展開します。



コラム

本書では、例として次のディレクトリを指定します。

「C:/Resin4.0.44」



注意

Resin を起動するためには「.NET Framework 3.5」が必要です。

Windows Server 2012 環境では、「.NET Framework 4.5」のみインストールされているため、

「.NET Framework 3.5」のセットアップを行ってください。

詳細は「[.NET Framework のセットアップ](#)」を参照してください。

Resin の設定

1. <C:/Resin4.0.44/conf/resin.properties> ファイルを開きます。
2. 「jvm_args」プロパティに、インストール環境に応じたメモリ値、ヒープの最大サイズを設定します。
本書では、例として次の値を設定します。

```
# Arg passed directly to the JVM
jvm_args : -Xmx2048m -Dfile.encoding=UTF-8
```



注意

設定する値は「1024m」以上にしてください。

「1024m」より小さい値を設定した場合、正常に動作しない恐れがあります。



コラム

Resin の起動時にポートが重複している旨のエラーが発生する場合、

Resin の停止後、ポート番号の設定を変更してください。

```
java.lang.RuntimeException: java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind
    Can't bind to *:8080.
    Check for another server listening to that port.
```

「app.http」プロパティに設定されている「8080」を、「8081」などの使用されていないポート番号に変更してください。

```
# Set HTTP and HTTPS ports.  
# Use overrides for individual server control, for example: app-0.http : 8081  
app.http      : 8081
```

変更が完了したら、Resin を再起動してください。

JDBCドライバの配置

1. ダウンロードした、JDBCドライバを以下のディレクトリにコピーします。

C:/Resin4.0.44/lib

次は、「[Apache Cassandra](#)」へ進みます。

Apache Cassandra

項目

- [Apache Cassandra のセットアップ](#)
- [設定ファイルの編集](#)
- [Apache Cassandra の起動](#)

Apache Cassandra のセットアップ



コラム

今回のセットアップでは、Apache Cassandra は intra-mart Accel Platform と同じマシンにセットアップします。

- Apache Cassandra を入手します。

Apache Cassandra は次のURLよりダウンロードできます。

<http://archive.apache.org/dist/cassandra/1.1.12/apache-cassandra-1.1.12-bin.tar.gz>

- ダウンロード後、<apache-cassandra-1.1.12-bin.tar.gz>ファイルを任意のパスに展開します。

※ファイルの展開には、TAR-GZ形式の圧縮ファイルが展開できる解凍ツールを利用してください。



コラム

本書では、例として次のディレクトリを指定します。

「C:/apache-cassandra-1.1.12」

- <C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat>ファイルをエディタで開きます。

- インストール環境に応じたメモリ値を指定します。

「Xms」プロパティに最小ヒープサイズ、「Xmx」プロパティに最大ヒープサイズを指定します。



コラム

```
set JAVA_OPTS=-ea^
-javaagent:"%CASSANDRA_HOME%\libjamm-0.2.5.jar"^
-Xms512M^
-Xmx512M^
```



注意

設定する値は「512M」以上にしてください。
Cassandraとしては1GB以上に設定することを推奨されています。
「512M」より小さい値を設定した場合、正常に動作しない恐れがあります。

- Windows環境変数に JDK7をインストールしたホームディレクトリを追加します。

WindowsOSのマニュアルにしたがい、次のように設定します。

変数	JAVA_HOME
値	JDK をインストールしたホームディレクトリ

設定ファイルの編集

- 環境設定を行います。
 - <C:/apache-cassandra-1.1.12/conf/cassandra.yaml>ファイルをエディタで開きます。



注意

このファイルは展開直後は読み取り専用属性となっているため解除しておきます。

- データの保存場所を指定します。
指定したディレクトリが無い場合、起動時に自動で作成されます。

「data_file_directories」プロパティに任意のパスを指定します。



コラム

本書では、例として次の内容を指定します。

```
data_file_directories:
- C:/apache-cassandra-1.1.12/data_file
```

- CommitLogの保存場所を指定します。
指定したディレクトリが無い場合、起動時に自動で作成されます。

「commitlog_directory」プロパティに任意のパスを指定します。

コラム

本書では、例として次の内容を指定します。

```
# commit log
commitlog_directory: C:/apache-cassandra-1.1.12/commit_log
```

- キャッシュデータの保存場所を指定します。
指定したディレクトリが無い場合、起動時に自動で作成されます。

「saved_caches_directory」プロパティに任意のパスを指定します。

コラム

本書では、例として次の内容を指定します。

```
# saved caches
saved_caches_directory: C:/apache-cassandra-1.1.12/saved_caches
```

- <C:/apache-cassandra-1.1.12/conf/log4j-server.properties>ファイルをエディタで開きます。

注意

このファイルは展開直後は読み取り専用属性となっているため解除しておきます。

- システムログの保存場所を指定します。

「log4j.appender.R.File」プロパティに任意のパスを指定します。

コラム

本書では、例として次の内容を指定します。

```
log4j.appender.R.File=C:/apache-cassandra-1.1.12/system.log
```

Apache Cassandra の起動

- Apache Cassandra を起動します。

<C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat> をダブルクリックします。

コマンドプロンプト上に次のメッセージの表示されたら起動は完了です。

```
INFO 12:55:11,319 Using synchronous/threadpool thrift server on localhost/127.0.0.1 : 9160
INFO 12:55:11,320 Listening for thrift clients...
```

コラム

Apache Cassandra の起動時、以下のエラーが発生する場合、ポート番号の設定を変更してください。

```
エラー: エージェントが例外をスローしました。: java.rmi.server.ExportException: Port already in use: 7199;
nested exception is: java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind
```

<C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat>ファイルをエディタで開きます。

Dcom.sun.management.jmxremote.portプロパティに設定されている「7199」を、「7198」などの使用されていないポート番号に変更してください。

```
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=7198^
```

変更が完了したら、再度 Apache Cassandra を起動してください。

コラム

2回目以降の起動がうまくいかない場合

<C:/apache-cassandra-1.1.12/commit_log> ディレクトリを削除し、Apache Cassandra を再起動してください。



コラム

Apache Cassandra の停止方法

起動時に立ち上がったコマンドプロンプト上において「Ctrl」+「C」コマンドを実行し、プロセスを停止します。

より細かい設定等を参照したい場合は「[Cassandra管理者ガイド](#)」を参照してください。

次は、「[Apache Solr](#)」へ進みます。

Apache Solr

項目

- 前提条件
- Apache Solr のセットアップ
- 「Apache Solr」の起動、Admin画面へ接続、停止

前提条件

- 「Resin」上へ「Apache Solr」をセットアップする場合には、「Resin」がインストールされている必要があります。
- IM-Juggling 上で「標準アプリケーション」-「IM-ContentsSearch for Accel Platform」モジュールを選択し「IM-ContentsSearch for Accel Platform」を利用する場合、「Apache Solr」サーバを構築する必要があります。

Apache Solr のセットアップ

1. メディアに同梱されている <solr_setup.zip> ファイルを任意のパスに展開します。
「Apache Solr」セットアップツールは次のURLからもダウンロードできます。

http://www.intra-mart.jp/download/product/iap/im_contents_search/solr_setup.zip



コラム

本書では、例として次のディレクトリを指定します。

「C:/solr」

2. コマンドプロンプトを開き、次のパスへ移動します。
C:/solr/solr_setup
3. 次のコマンドを入力します。
<Enter>キーを押下するとセットアップツールが実行されセットアップツールのコマンド一覧とその説明が表示されます。
C:/solr/solr_setup> setup.bat

```
C:\solr\solr_setup>
C:\solr\solr_setup> setup.bat
Buildfile: C:\solr\solr_setup\build\build.xml

usage:
[echo] Welcome to the Apache Solr Installation!
[echo] Use " to display usage
[echo] Use 'usage' to display usage
[echo] Use 'jetty' to download the jetty zip file, solr zip file and the solr.war and unzip the zip files and config the jetty port
[echo] Use 'jetty.start' to download the jetty zip file, solr zip file and the solr.war and unzip the zip files and config the jetty port and start the jetty
[echo] Use 'resin' to download the solr zip file and the solr.war for resin and unzip the zip file
[echo] Use 'tomcat' to download the solr zip file and the solr.war for tomcat and unzip the zip file

BUILD SUCCESSFUL
Total time: 1 second

C:\solr\solr_setup>
```

4. Resin にセットアップします。
C:/solr/solr_setup> setup.bat resinを実行すると ./dist ディレクトリに resin ディレクトリが作成されます。



コラム

setup.bat resin 実行後の表示される画面の一部です。

```

[get] .....
[get] .....
[get] .....
[get] .....
[get] .....
[get] .....
[get] .....
[get] .....
[get] .....
[get] last modified = Thu Sep 27 01:25:24 JST 2012

md.resin.webapps:
[echo] make resin webapps dir(../dist/resin/resin/webapps)...
[mkdir] Created dir: C:\solr\solr_setup\dist\resin\resin\webapps

copy.resin.solr.war:
[echo] copy the solr.war from ./download/solr.war to ../dist/resin/resin/webapps...
[copy] Copying 1 file to C:\solr\solr_setup\dist\resin\resin\webapps

common.display.readme:
[echo] =====
[echo] ● 定義
[echo]   <%resin_home%>: Application Server Resinがインストールされているディレクトリ
[echo]
[echo] ● Solrの配置と設定
[echo]   /dist/resin_solr/resin/*. *を<%resin_home%>へコピーしてください。
[echo]
[echo] ● Solr ホームロケーションの設定
[echo]   <%resin_home%>/conf/resin.xmlに/dist/resin_solr/env-entry.txtの内容を追加します。
[echo]
[echo]   env-entry.txtの内容をresin.xmlの</resin>の前にコピーします。
[echo]
[echo] =====
[echo] C:\solr\solr_setup\dist\resin\readme.txt

BUILD SUCCESSFUL
Total time: 11 seconds

C:\solr\solr_setup>

```

5. セットアップツールの実行が完了すると、セットアップに必要なファイル群が ./dist ディレクトリに出力されます。
 続けてファイル内の readme.txt に記述された手順 (コマンド完了時に表示された内容に同じ) を行ってください。

コラム

Apache Solr のセットアップする Resin は、
 intra-mart Accel Platform をセットアップする Resin と同じ環境でも動作します。

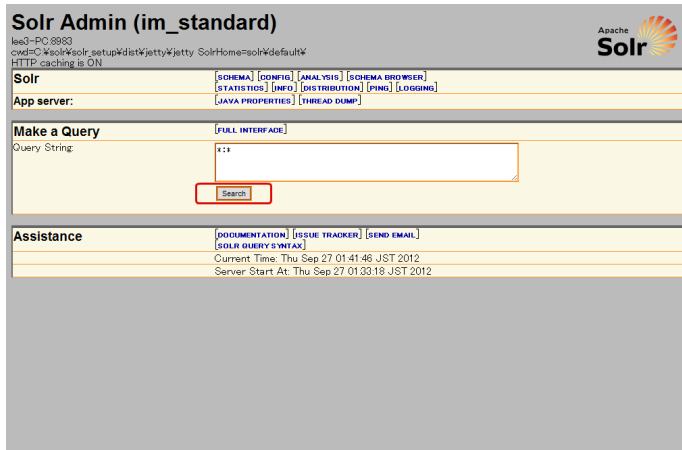
6. 以上でセットアップが完了です。
 より細かい設定を参照したい場合は「[Solr管理者ガイド](#)」を参照してください。

「Apache Solr」の起動、Admin画面へ接続、停止

1. 「Apache Solr」をセットアップした Resin を起動します。
2. 「Apache Solr」のAdmin画面へ接続し、「search」ボタンが正常に動作することを確認します。

<http://localhost:8080/solr/default/admin/>

※下記の画面はイメージです。



次は、「[WARファイルの作成](#)」へ進みます。

WARファイルの作成

- WARファイルの作成には次の手順が必要です。

プロジェクトの作成とモジュールの選択

IM-Juggling とは

IM-Juggling はモジュールの管理、WARファイルのリモートデプロイを実行できる環境構築ツールです。
このツールを使用し、新しい機能の導入や不具合修正の適用をします。

IM-Juggling のインストール

環境に合わせた IM-Juggling を任意のパスに展開します。

コラム

TRY版利用などの場合、IM-Juggling は次の「TRY版ダウンロードサイト」からダウンロードできます。

http://www.intra-mart.jp/support/try_j.html

※アンケートへのご記入後、遷移後のページより下記をダウンロードをしてください。

→IM-Juggling (WARファイルを生成するツール)

IM-Juggling (Windows 32Bit)

IM-Juggling (Windows 64Bit)

注意

製品版には IM-Juggling で利用するリポジトリデータも同梱されています。

%製品版メディアイメージ(DVD)%/Products/repository ディレクトリ

IM-Juggling を製品版メディアイメージからコピーして起動した場合、
この設定パスが適切な設定になっていない場合があります。
IM-Juggling ウィンドウ内・ツールバー右端にある「設定」-「IM-Juggling」-「モジュールリポジトリ」より、
ローカルリポジトリの参照先が正しい設定パスになっているかを確認してください。
インターネット接続の場合は、「http://」から始まるロケーションが有効(チェックがついている)となっている場合、
外部のリポジトリを参照します。

注意

利用する環境でプロキシ設定などが必要な場合は、「設定」-「一般」-「ネットワーク接続」を開きます。
アクティブ・プロバイダーとして「ネイティブ」を選択した場合、Internet Explorer のプロキシサーバの設定情報を引き継ぎます。
(Internet Explorer で「Alt」キーを押してメニューを表示し、「ツール」→「インターネットオプション」→「接続」タブ→「LANの設定」で表示されるプロキシサーバの設定です)

アクティブ・プロバイダーとして「手操作(マニュアル)」を選択し、
プロキシ・エントリーの「HTTP」の「編集」をクリックします。
プロキシ・エントリーの編集画面で「ホスト」、「ポート」、「認証情報」を設定して「OK」をクリックします。

！ 注意

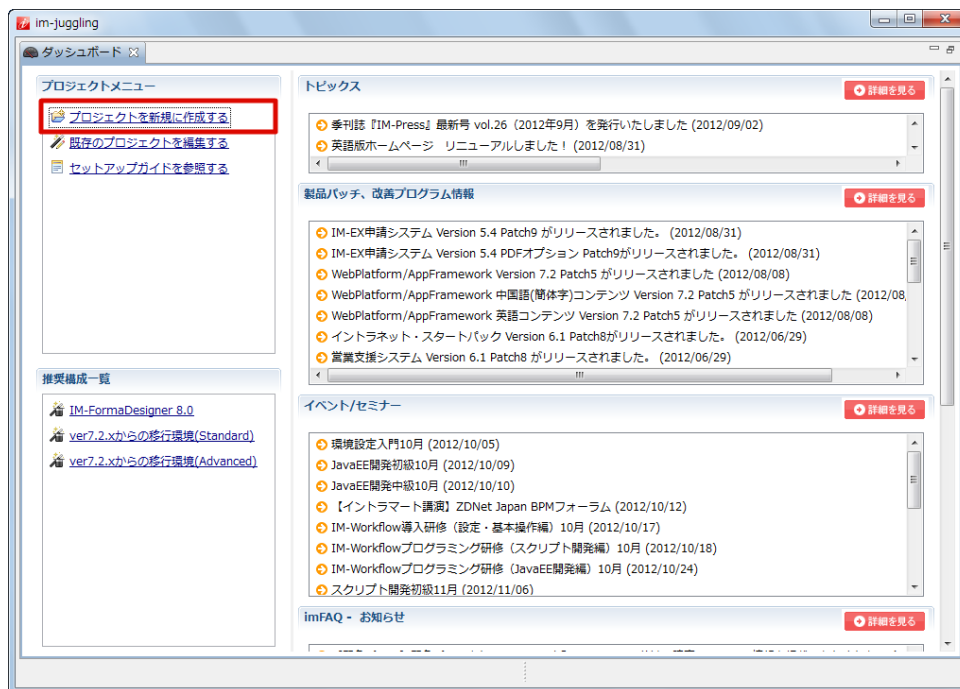
IM-Juggling を利用してプロジェクトの作成や、WARファイルの作成を行っている際にリポジトリ情報の取得等のエラーが発生した場合、下記のディレクトリにあるデータを削除して再度、IM-Juggling を起動して試行してください。

%OSユーザディレクトリ%\juggling\workspace\repository ディレクトリ

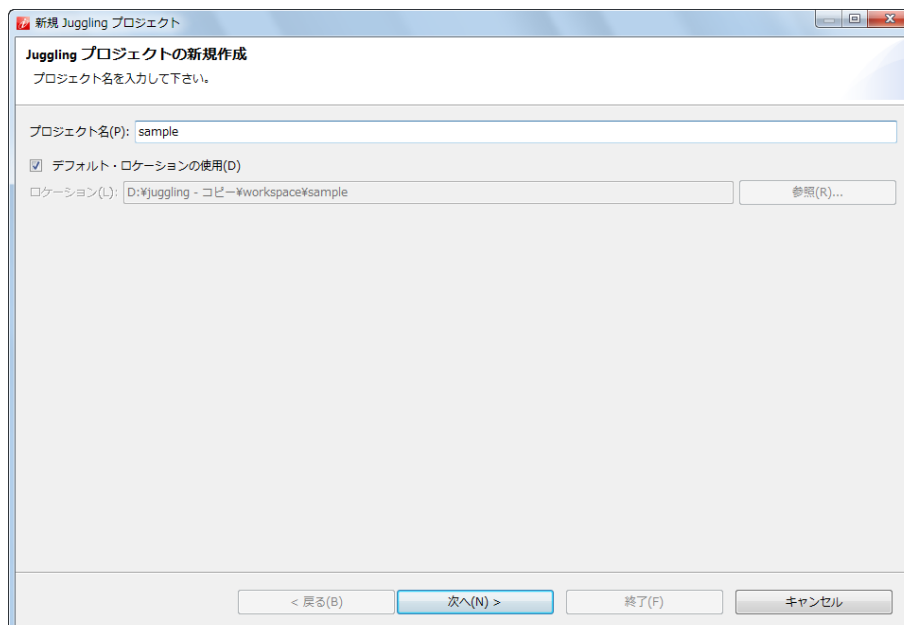
古い情報が残っているためにエラーとなる場合があります。
この古いファイルを削除する事で、最新のデータが再取得され問題を回避します。

プロジェクトの新規作成

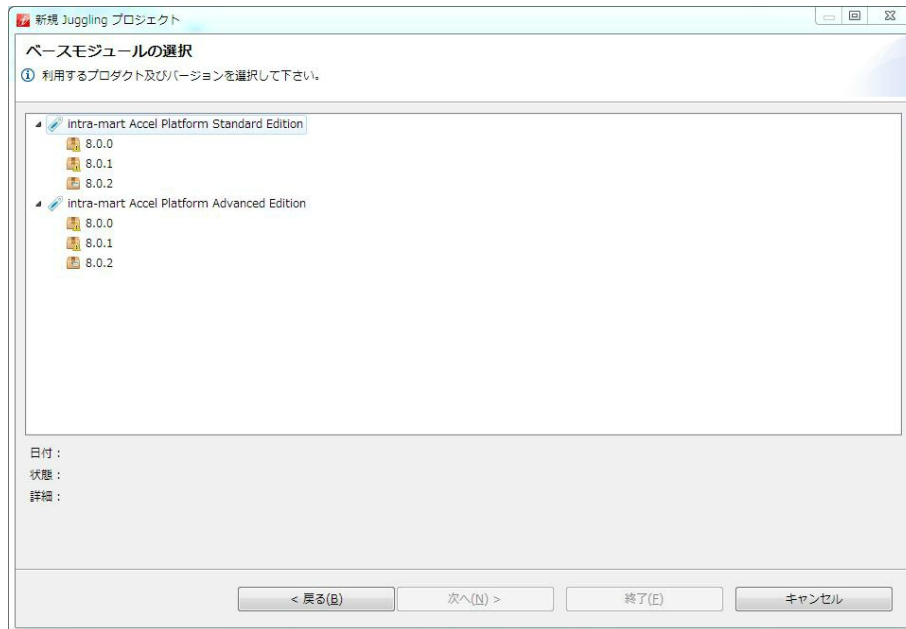
1. 展開したディレクトリ直下にある、**juggling.exe** を起動します。
2. 初回起動時の場合、「使用許諾契約書の同意」が表示されます。
「同意する」を選択し「OK」をクリックします。
3. ダッシュボードが表示されます。
「プロジェクトを新規に作成する」を選択します。



4. ポップアップ表示されたウィザード画面内の「プロジェクト名」に半角英数字の任意のプロジェクト名を入力します。
入力後、「次へ(N)」をクリックします。



5. 利用するプロダクト及びバージョンを選択します。
選択後、「次へ(N)」をクリックします。



コラム

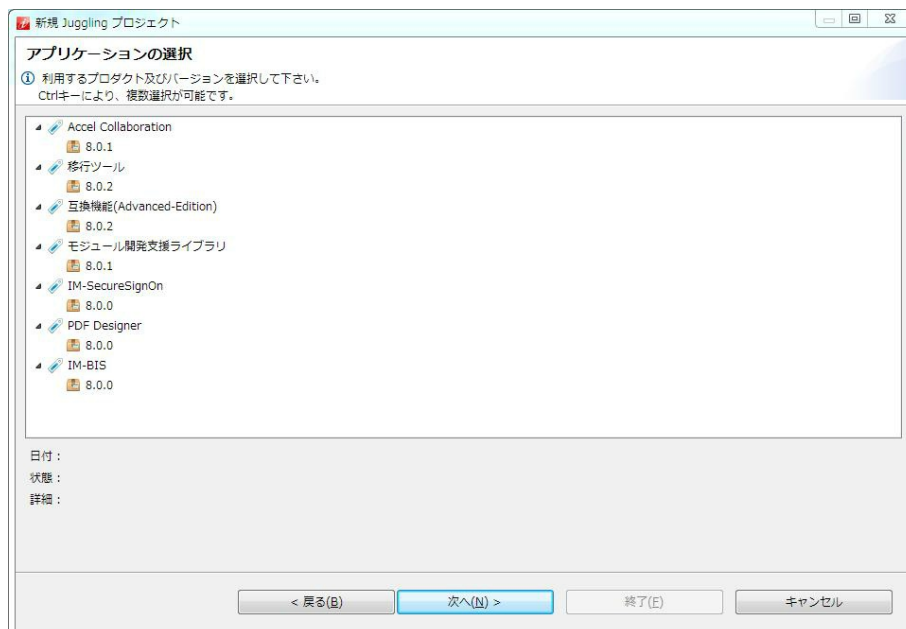
TRY版利用などの場合、より製品を体験頂くため **Advanced Edition** を選択する事を推奨します。
Advanced Edition には、ワークフロー機能 (IM-Workflow) が含まれています。

各製品構成については、「イントロダクション」-「intra-martの製品構成」を参照してください。

コラム

同一プロダクトにおいて複数のバージョンが表示されている場合は最新のものを選択する事を推奨します。

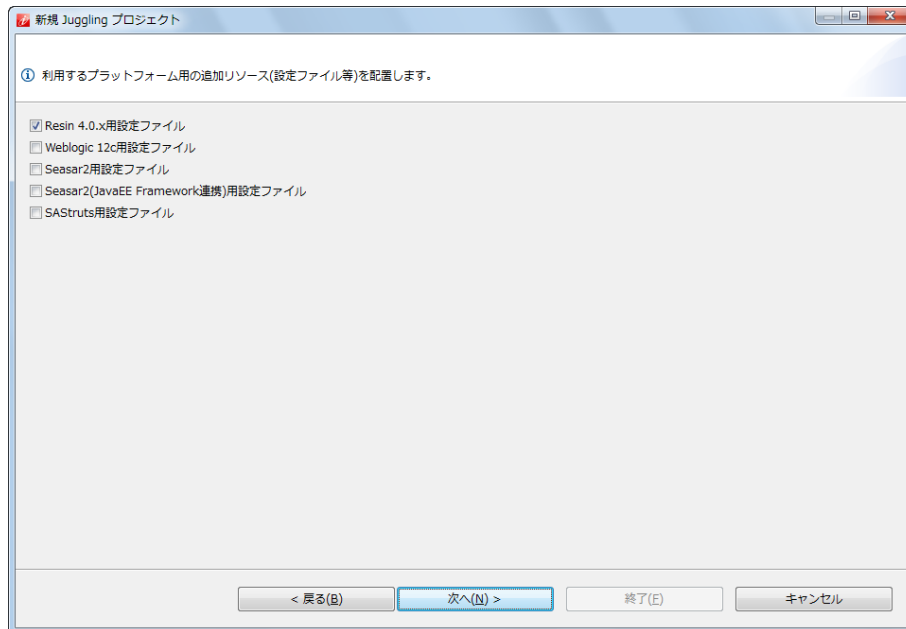
- 利用するアプリケーションを選択します。
 選択後、「次へ (N)」をクリックします。



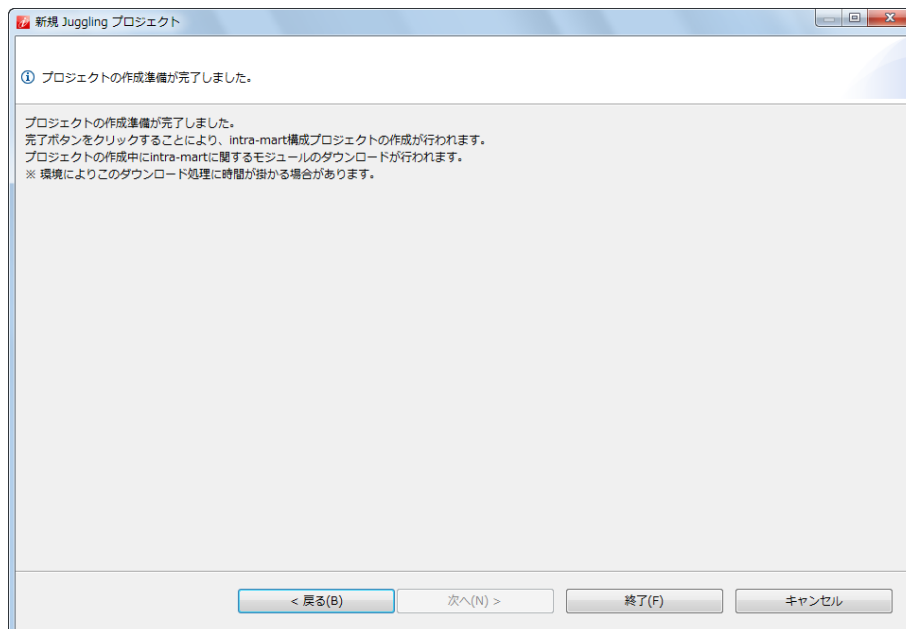
注意

「移行ツール」、「互換機能」は version7.2 からの移行を行う場合に選択します。
 本書でのセットアップでは必要ありませんので、選択しないようにしてください。

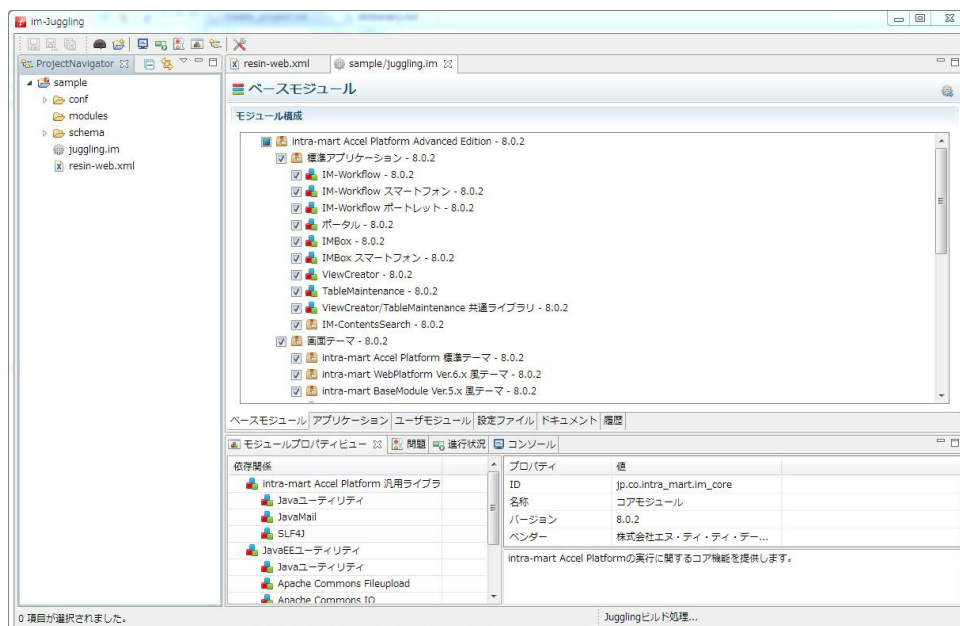
- 利用するプラットフォーム用の追加リソース(設定ファイル等)を選択する画面が表示されますが、
 変更しないまま、「次へ (N)」をクリックします。



8. 最後に「終了(F)」をクリックします。



9. プロジェクトの作成処理が行われ、完了すると以下の画面が表示されます。



モジュールの選択

1. 利用するモジュールを選択します。

※IMBox を利用する場合、何も変更する必要はありません。



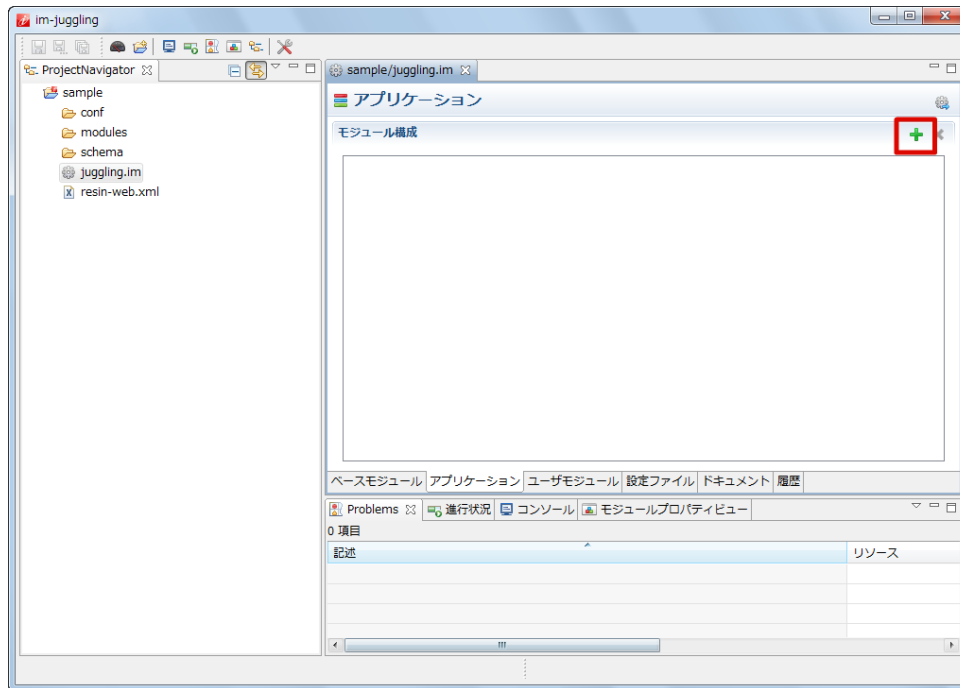
注意

IMBox を構成に含めない場合、IMBox モジュールを外す必要があります。
詳細は、「[IMBox モジュールを外す方法](#)」を参照してください。

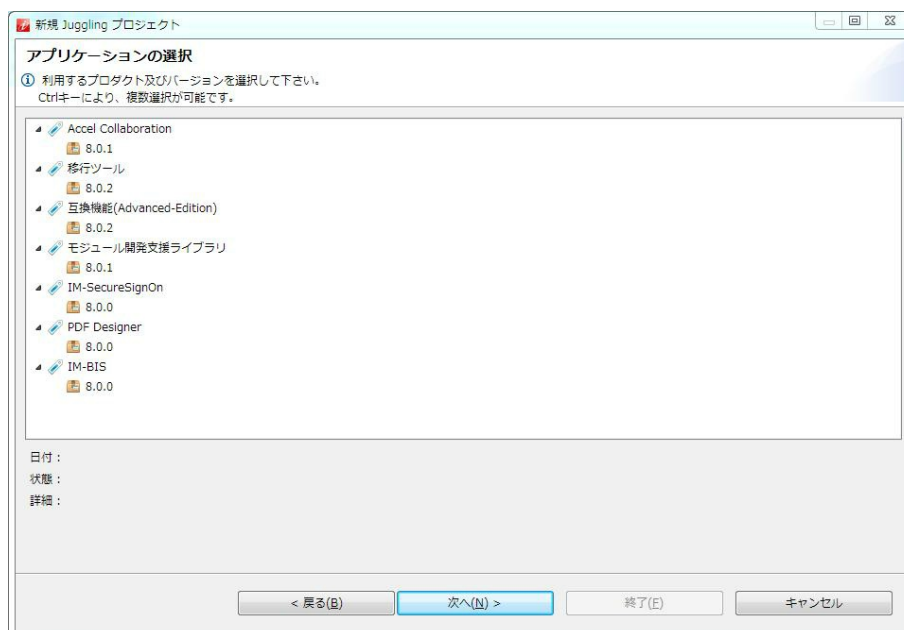
アプリケーションの追加

プロジェクト作成後、アプリケーションを追加することができます。

1. 「アプリケーション」タブをクリックし、「+」をクリックします。



2. 追加したいアプリケーションをクリックし、「OK」をクリックします。

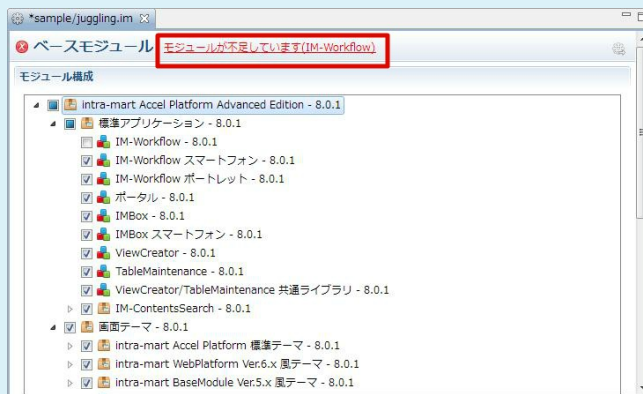


注意

「移行ツール」、「互換機能」は version7.2 からの移行を行う場合に選択します。
本書でのセットアップでは必要ありませんので、選択しないようにしてください。

画面上部にエラーメッセージが表示される場合

モジュール単位・アプリケーション単位で依存関係を持っています。



以下の手順で必要な設定を追加することができます。

1. メッセージをクリックします。
2. 「依存関係の解決」画面で「OK」をクリックします。

次は、「[設定ファイルの編集](#)」へ進みます。

設定ファイルの編集

intra-mart Accel Platform を稼働させるために以下の設定ファイルの編集を行います。

DataSource

intra-mart Accel Platform で利用するデータベース (PostgreSQL) の設定を行います。

1. 「ProjectNavigator」内の <(プロジェクト名)/resin-web.xml> ファイルをダブルクリックで開き、「ソース」タブを選択してください。
2. <web-app>/<database>/<driver> に接続先のデータベース接続情報を設定します。

```
<driver>
  <type>org.postgresql.Driver</type>
  <url>jdbc:postgresql://localhost:5432/iap_db</url>
  <user>imart</user>
  <password>imart</password>
</driver>
```

次は、「[Storage](#)」へ進みます。

Storage

Storage領域として利用するパスを指定します。

1. 「ProjectNavigator」内の <(プロジェクト名)/conf/storage-config.xml> ファイルをダブルクリックで開き、「ソース」タブを選択してください。
2. <storage-config>/<storage-info>/<root-path-name> にStorage領域のパスを設定します。

```
<root-path-name>/tmp/storage</root-path-name>
```

！ 注意

デフォルト設定（「/tmp/storage」）の場合、Resin を起動するドライブ上にStorageフォルダが作成されます。

例：Resin を「Cドライブ」上で起動した場合、
Storageフォルダは、「C:/tmp/storage」フォルダに作成されます。

次は、「[WARファイルの出力](#)」へ進みます。

全文検索機能 (IM-ContentsSearch) の設定

全文検索機能 (IM-ContentsSearch for Accel Platform) で利用する Apache Solr の設定を行います。
全文検索機能を利用しない場合は、この設定は不要です。

項目

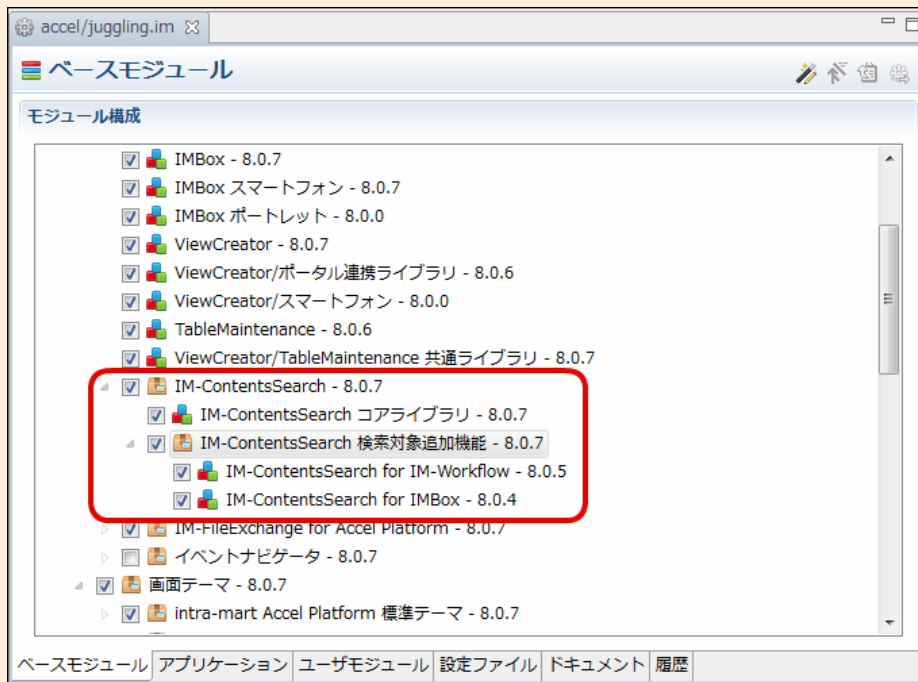
- モジュールの選択
- Solrサーバ接続設定 (solr-config.xml)

モジュールの選択

intra-mart Accel Platform で全文検索機能を実現するためのモジュールです。
検索対象を追加するには検索対象追加モジュールを追加する必要があります。

注意

IM-ContentsSearch モジュールを利用する場合は、IM-Juggling で IM-ContentsSearch モジュールを選択してください。
IM-Juggling のプロジェクト作成時の初期設定では、IM-ContentsSearch モジュールは選択済みになっています。



Solrサーバ接続設定 (solr-config.xml)

Solrサーバへ接続する設定をします。

1. 「ProjectNavigator」内の <(プロジェクト名)/conf/solr-config.xml> ファイルをダブルクリックで開き、「ソース」タブを選択してください。

```
<group name="default">
  <searcher>
    <method>POST</method>
    <distribution-policy>FIRST</distribution-policy>
    <servers>
      <url>http://localhost:8983/solr/default</url>
    </servers>
  </searcher>
  <indexer>
    <distribution-policy>IDHASH</distribution-policy>
    <servers>
      <url>http://localhost:8983/solr/default</url>
    </servers>
  </indexer>
  <extractor ref="im_default" />
</group>
```

2. <url>設定値を次のように変更します。
 - 変更前:<url>http://localhost:8983/solr/default</url>
 - 変更後:<url>http://localhost:8080/solr/default</url>

i コラム

「ProjectNavigator」内のツリー上に設定ファイルがない場合

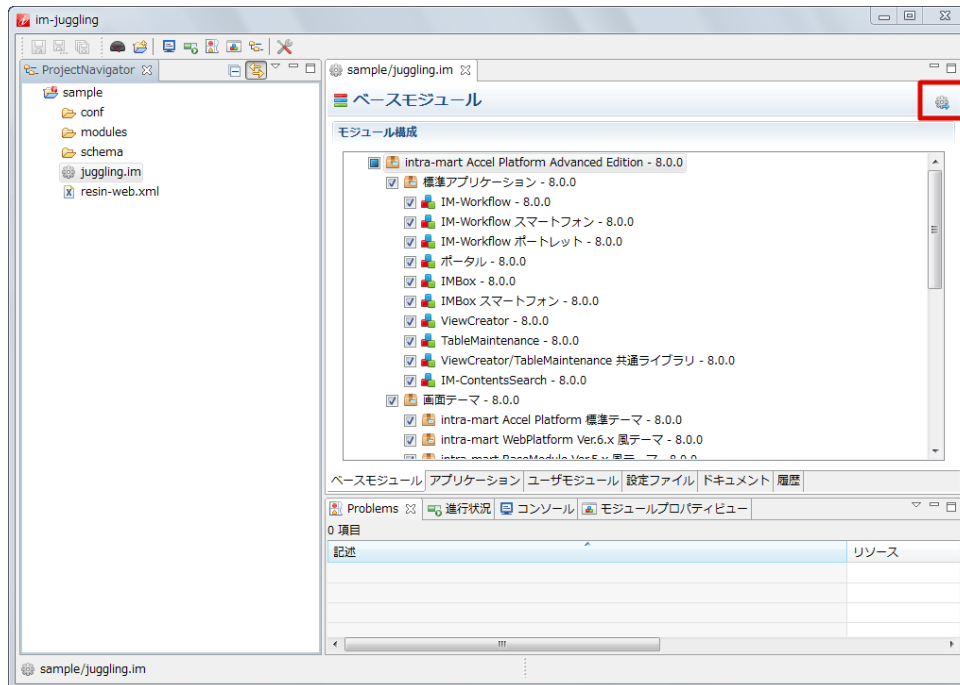
1. <(プロジェクト名)/juggling.im> ファイルをダブルクリックします。
2. 「設定ファイル」タブをクリックします。

3. 対象の設定ファイルを選択し、右側にある「出力」をクリックします。
4. 「ProjectNavigator」内のツリー上に表示されたファイルをダブルクリックして編集を行います。

次は、「DataSource」へ進みます。

WARファイルの出力

1. <juggling.im> ファイルを開き、右上にある「ビルドウィザード」アイコンをクリックします。

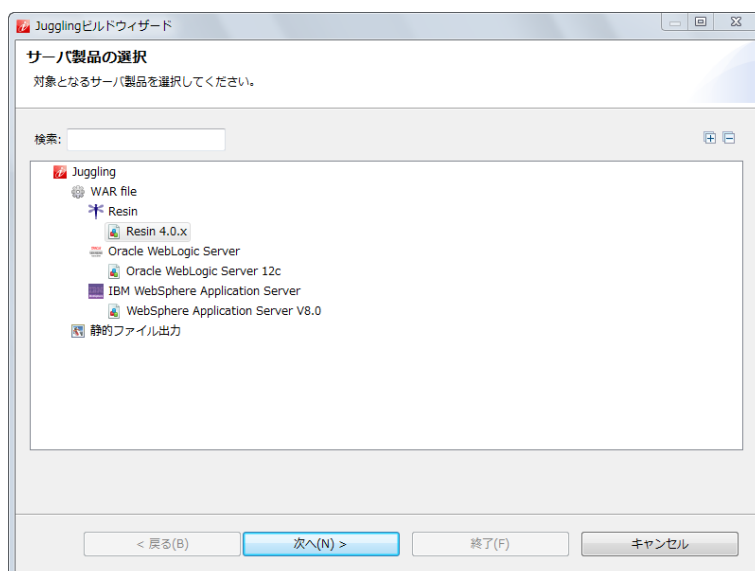


2. 「サーバ製品の選択」画面で対象となるサーバを選択し、「次へ」をクリックします。



コラム

本書では、Resin 4.0.x を選択します。

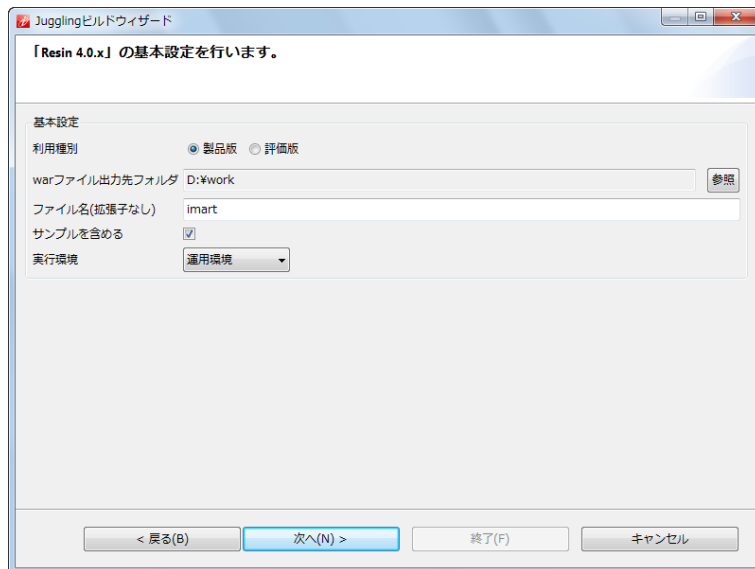


3. 「基本設定」画面で設定を行い、「次へ」をクリックします。



コラム

本書では、
利用種別を「製品版」を選択します。
warファイル出力先フォルダを「C:\」を選択します。
ファイル名(拡張子なし)を「imart」と入力します。
サンプルを含めるに、チェックします。
実行環境を「運用環境」を選択します。



注意

「WARファイル出力先フォルダ」には、実行するユーザの権限があるフォルダを指定してください。

- 「ライセンスのレビュー」画面で内容を確認し、同意頂ける場合は「使用条件の条項に同意します。」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 「設定項目の確認」画面で内容を確認し、「終了」をクリックします。
Jugglingビルドウィザード画面が立ち上がり、ダウンロードが開始されます。
ダウンロードに時間がかかりますので、完了するまで操作を行わないでください。



- WARファイルが指定の場所に出力されると、ビルドウィザード画面が閉じます。
指定したディレクトリにWARファイルが出力されます。

次は、「[Web Application Server の起動](#)」へ進みます。

次は、「[プロジェクトの作成とモジュールの選択](#)」へ進みます。

Web Application Server の起動



注意

IMBox をご利用の場合は、Resin の起動前に、Apache Cassandra を起動する必要があります。
起動するには、<C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat> をダブルクリックします。



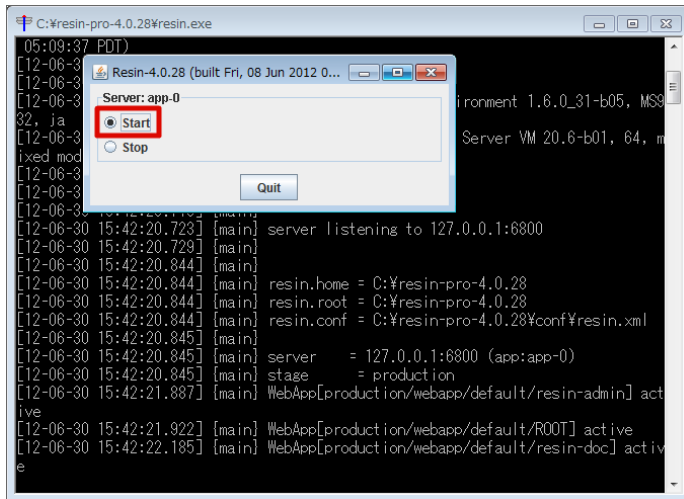
注意

Resin を起動するためには「.NET Framework 3.5」が必要です。
Windows Server 2012 環境では、「.NET Framework 4.5」のみインストールされているため、

「.NET Framework 3.5」のセットアップを行ってください。

詳細は「[.NET Framework のセットアップ](#)」を参照してください。

1. <C:\Resin4.0.44\resin.exe> ファイルをダブルクリックします。
起動停止画面とコンソールが表示されます。



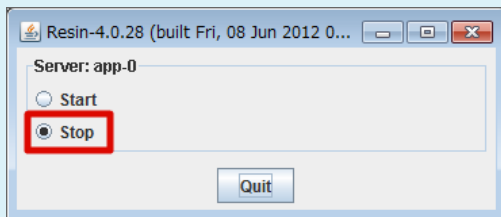
2. コンソールに以下のメッセージが表示されたら起動は完了です。

```
[12-07-02 18:30:00.000] {main} http listening to *:8080
[12-07-02 18:30:00.000] {main}
[12-07-02 18:30:00.000] {main} Resin[id=app-0] started in 55480ms
```

コラム

Resin の停止

1. 起動時に立ち上がった起動停止画面にて「Stop」をクリックします。



2. コンソールに以下のメッセージが表示されたら停止した状態となります。

```
{resin-shutdown} Shutdown Resin reason: OK
```

次は、「[WARファイルのデプロイ](#)」へ進みます。

WARファイルのデプロイ

1. IM-Juggling で作成したwarファイルを任意のディレクトリに配置します。
2. コマンド・プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

```
> cd C:\Resin4.0.44\
> resin deploy ..\imart.war
```

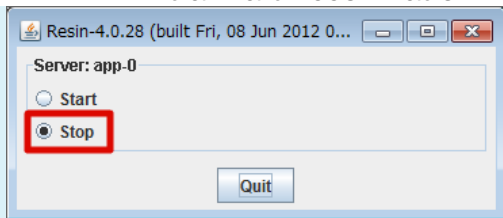
注意

WARファイルのデプロイには、Resin が起動している必要があります。

コラム

Resin を停止する場合

1. 起動時に立ち上がった起動停止画面にて「Stop」をクリックします。



コンソールに以下のメッセージが表示されたら停止した状態となります。

```
{resin-shutdown} Shutdown Resin reason: OK
```

次は、「[テナント環境セットアップ](#)」へ進みます。

テナント環境セットアップ

- Webブラウザを利用して、テナント環境セットアップを行います。
Webブラウザより以下のURLへアクセスします。

システム管理者ログイン画面: `http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/system/login`

※ Web Application Server をローカル環境にセットアップ、かつ、本書の例に合わせてセットアップした場合、次のアドレスで接続できます。

システム管理者ログイン画面: <http://localhost:8080/imart/system/login>



コラム

コンテキストパスはデプロイ時に設定したものを指定します。

Resin の場合、デプロイ時のWARファイル名となります。

`resin_war_deploy` を参照してください。

Resin 以外の Web Application Server については、デプロイ時に指定した「コンテキスト・ルート」となります。

- intra-mart Accel Platform の テナント環境セットアップ 手順は次の通りです。



各ウィザードの詳細については下記を参照してください。

1. システム全体の管理者 を設定します。

テナント設定

Step 1

Step 2

Step 3

Step 4

Step 5

Step 6

Step 7

Step 8

Step 9

Step 2 - システム管理者情報

ユーザコード*

パスワード

パスワード(確認)

ロケール*

日本語 ▼

次へ

項目	必須/任意	説明
ユーザコード	必須	システム管理者のユーザコードを入力します。 (例:system)
パスワード	任意	システム管理者のパスワードを入力します。
パスワード(確認)	任意	システム管理者のパスワードを入力します。
ロケール	必須	システム管理者のロケールを選択します。 初期表示されているロケールは、アクセスしているブラウザのロケール設定です。

i

コラム

“任意”項目は、必要に応じて入力してください。必要がなければ入力の必要はありません。

テナント情報

1. テナントの基本的な情報 を設定します。

テナント設定

Step 1 Step 2 **Step 3** Step 4 Step 5 Step 6 Step 7 Step 8 Step 9

Step 3 - テナント情報

テナントID *	
デフォルトロケール *	日本語 ▼
タイムゾーン *	(GMT+09:00) 日本 / 東京 ▼
アカウントライセンス数 *	☒ 無制限

次へ

項目	必須/任意	説明
テナントID	必須	テナントのIDを入力します。 「 DataSourceマッピングの設定 」の <tenant-id> で設定した値を入力します。 DataSourceマッピングの設定を行っていない場合は、「 default 」を入力します。
デフォルトロケール	必須	テナントのデフォルトロケールを選択します。 初期表示されているロケールは、アクセスしているブラウザのロケール設定です。 このロケールは運用中に変更することは推奨していません。 運用に応じたロケールを設定してください。
タイムゾーン	必須	テナントのタイムゾーンを選択します。
アカウントライセンス数	必須	テナントのアカウントライセンス数を入力します。 テナント管理者を登録するため「1」以上を入力してください。



注意

TRY版利用などにおいてサンプルデータセットアップを行う場合は、「アカウントライセンス数」は「無制限」を選択する事を推奨します。

1. テナントの環境情報 を設定します。



コラム

「Resinデータソース設定」モジュールを適用している場合、リソース参照名にセレクトボックスが表示されます。
モジュールが適用されていない場合はテキスト入力になります。

テナント設定

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4 Step 5 Step 6 Step 7 Step 8 Step 9

Step 4 - テナント環境情報

リソース参照名	
ストレージパス	
ベースURL	
グローバルナビ最大表示数	

次へ

項目	必須/任意	説明
リソース参照名	任意	リソース参照名を選択します。
ストレージパス	任意	ストレージパスを入力します。
ベースURL	任意	ベースURLを入力します。
グローバルナビ最大表示数	任意	グローバルナビの最大表示件数を入力します。



コラム

ストレージパスに storage-config.xml の <storage-directory-name>を付加したパスが
パブリックストレージパス %PUBLIC_STORAGE_PATH% になります。
(例)
ストレージパスに /var/imart と入力し
設定ファイル storage-config.xml の <storage-directory-name> に storage
と設定した場合、
%PUBLIC_STORAGE_PATH% は /var/imart/storage となります。



コラム

未指定の場合は、それぞれの設定ファイルの内容が有効になります。

1. テナントの管理者 を設定します。

テナント設定

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4 Step 5 Step 6 Step 7 Step 8 Step 9

Step 5 - テナント管理者情報

ユーザコード*

パスワード

パスワード(確認)

次へ

項目	必須/任意	説明
ユーザコード	必須	テナント管理者のユーザコードを入力します。 (例:tenant)
パスワード	任意	テナント管理者のパスワードを入力します。
パスワード(確認)	任意	テナント管理者のパスワードを再入力します。



コラム

“任意”項目は、必要に応じて入力してください。必要がなければ入力の必要はありません。



コラム

テナント環境セットアップ中にエラーが発生してセットアップが中断してしまった場合、再度セットアップを実施してもテナント管理者は登録されません。
このように正常にテナント管理者を登録できなかった場合、テナント管理画面から改めてテナント管理者を登録することができます。
詳しくは、「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[テナント管理](#)」の「テナント管理者を新規に作成する」の項を参照してください。

LDAP連携・設定



注意

IM-Jugglingにおいて、**LDAP認証モジュール** を選択した場合のみ、この画面が表示されます。

1. **LDAP連携・設定** 情報を設定します。

テナント設定

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4 Step 5 Step 6 Step 7 Step 8 Step 9

Step 6 - LDAP連携・設定

設定内容 *

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<ldap-certification-config xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/security/certification/provider/ldap">
  <enable>false</enable>
  <load-balancing>false</load-balancing>
  <attempt-on-failed-authentication>true</attempt-on-failed-authentication>
  <log>false</log>
  <ldap-servers>
    <ldap-server>
      <permit-no-password>true</permit-no-password>
      <provider-url>ldap://localhost:389/</provider-url>
      <context-factory>com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory</context-factory>
      <base-dn>dc=ldaps,dc=intra,dc=intra-mart,dc=jp</base-dn>
      <search-filter>sAMAccountName=?</search-filter>
      <search-controls>
        <connect-timeout-property-name>com.sun.jndi.ldap.connect.timeout</connect-timeout-property-name>
        <connect-timeout>0</connect-timeout>
        <searching-dn>sAMAccountName=admin,cn=User,dc=ldaps,dc=intra,dc=intra-mart,dc=jp</searching-dn>
        <searching-pw>*****</searching-pw>
        <count-limit>0</count-limit>
        <time-limit>0</time-limit>
      </search-controls>
    </ldap-server>
  </ldap-servers>
</ldap-certification-config>
```

次へ

コラム

初期表示は IM-Juggling のプロジェクト/conf/ldap-certification-config.xmlの内容が表示されます。ただし、<enable>タグの値はfalseとなっています。

注意

<enable>タグの内容がtrueである場合のみLDAP認証が有効となります。LDAP認証を有効とする場合、認証先であるLDAPの設定を正しく行ってください。

項目	必須/任意	説明
設定内容	必須	LDAP認証の有効/無効、および、認証先であるLDAPの情報を入力します。入力内容については、「 LDAP認証設定ファイル 」の説明を参照してください。



注意

IM-Jugglingにおいて、**ログインセッション管理モジュール** を選択した場合のみ、この画面が表示されます。

1. 一般ユーザのログイン時に二重ログインを検出した場合の動作を設定します。

ログインセッション管理の設定内容は以下のとおりです。

- 標準の認証エラーページを表示する

標準の認証エラーページを表示します。

- 二重ログインの検出を表示する

二重ログインを検出したことを一般ユーザに通知します。
一般ユーザは通知された画面からログインを再試行することができます。

- ログインユーザによるセッションの無効化を許可する

二重ログインを検出したことを一般ユーザに通知します。
一般ユーザは通知された画面からログイン中のセッションを強制的に無効化しログインをすることができます。

Apache Cassandra接続情報



注意

IM-Jugglingにおいて、**IMBoxモジュール** を選択した場合のみ、この画面が表示されます。

1. Apache Cassandra接続情報を入力します。

テナント 設定

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4 Step 5 Step 6 Step 7 Step 8 Step 9

Step 7 - Cassandra接続情報

クラスタ名 * IMBox Cluster

キースペース * default

接続先 * 127.0.0.1:9160

レプリケーションファクタ * 1

認証情報設定 ☒ 設定する

認証ユーザ名 * admin

認証パスワード *

テスト 接続

次へ

注意

Apache Cassandra接続情報はIMBox利用時のみ表示されます。
テナント環境セットアップを実行する前にApache Cassandraの設定、起動が行われている必要があります。
Apache Cassandraの設定に関する詳細は「[IMBox Cassandra管理者ガイド](#)」を参照してください。

項目	必須/任意	説明
クラスタ名	必須	Cassandraサーバのクラスタ名を入力します。 (例:IMBox Cluster)
キースペース	必須	Cassandraサーバのキースペースを入力します。 (例:default)
接続先	必須	Cassandraが稼働しているサーバのIPアドレスとポート番号を入力します。 接続先は「IPアドレス」または、「IPアドレス:ポート番号」の形式で入力します。(ポート番号を省略した場合、9160を利用します。) 9160以外のポート番号を指定した場合、新規ノードの検出機能にてエラーが発生します。 分散構成で複数のCassandraが稼働している場合、すべての接続先を1行ずつ入力してください。 (例:127.0.0.1:9160)
レプリケーションファクタ	必須	クラスタ内部のデータのレプリカ数を入力します。 レプリケーションファクタは、キースペース作成時のみ使用されます。 (例:1)
認証情報設定	任意	Cassandraへの接続における認証の利用を選択します。 認証情報を設定する場合には書き込み権限の確認を行うため、事前にキースペースを作成しておく必要があります。
認証ユーザ名	認証設定利用時のみ必須	Cassandraへの認証接続における接続ユーザ名を入力します。 認証設定利用時のみ表示されます。 (例:admin)
認証パスワード	認証設定利用時のみ必須	Cassandraへの認証接続におけるパスワードを入力します。 認証設定利用時のみ表示されます。 (例:admin)
テスト接続		入力した内容でCassandraが接続可能であるかのテストが行えます。 テナント作成時には、必ず行うことを推奨します。

コラム

“任意”項目は、必要に応じて入力してください。必要がなければ入力の必要はありません。

コラム

Cassandra接続情報の登録時の初期値は、Cassandraサーバ接続設定(cassandra-config.xml)の設定値となります。
cassandra-config.xmlに関する詳細は、[Cassandraサーバ接続設定\(cassandra-config.xml\)](#)を参照してください。

Apache Solr接続情報



注意

- IM-Jugglingにおいて、**IM-ContentsSearch**モジュールを選択した場合のみ、この画面が表示されます。
- IM-ContentsSearch for Accel Platformを利用する場合は、Apache Solrのセットアップが必要となります。
Apache Solrのセットアップに関する詳細は「[Apache Solr](#)」の「セットアップ」を参照してください。

1. Apache Solr接続情報を入力します。

項目	必須/任意	説明
Solr接続情報を設定する	任意	テナント環境セットアップ時にApache Solr接続情報を設定するかどうかをこのボタンで切り替えることができます。 「Solr接続情報」ボタンを未選択状態にすることで、Apache Solr接続情報を設定せずにテナント環境セットアップを実行することができます。
グループID	固定("default")	標準接続先のグループIDは"default"から変更することはできません。
標準接続先	必須(「Solr接続情報」ボタンが有効になっている場合のみ)	接続先を選択します。 「Solr接続情報」ボタンが選択状態になっている場合のみ選択することができます。 他のテナントの標準接続先に設定されている接続先は表示されません。

Solr接続情報の設定方法

テナント環境セットアップ時に、システムデータベースへ登録するSolr接続情報を設定する方法は以下の通りです。

■ 設定ファイルから変更する方法

初回のテナント環境セットアップ前にSolrサーバ接続設定ファイル(solr-config.xml)を設定しておくことで、solr-config.xmlの設定(<group name="default">)で定義されている設定値がSolr接続情報としてシステムデータベースへ登録されます。

Solrサーバ接続設定ファイル(solr-config.xml)は初回のテナント環境セットアップ時、または、Solr接続設定が1件も登録されていない場合に標準接続先の項目として利用します。

solr-config.xmlに関する詳細は、「[Solrサーバ接続設定\(solr-config.xml\)](#)」を参照してください。

■ 画面から変更する方法

別のテナントを新規作成するときは「Solr接続設定」画面で登録したSolr接続情報が標準接続先の選択項目として表示されます。

システム管理者メニューのテナント管理画面で、作成したテナントにApache Solr接続情報を設定することができます。

「Solr接続設定」画面に関する詳細は「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[Solr接続設定](#)」を参照してください。

登録

1. 各ステップの設定が完了したら、「登録」をクリックします。

注意

セットアップでエラーが発生した場合、「[セットアップで困ったら・・・](#)」を参照してください。

テナント設定

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4 Step 5 Step 6 Step 7 Step 8

Step 9

Step 9 - 登録

テナント環境セットアップを行います。
デプロイされたモジュールの数やサーバの性能によっては処理に時間がかかる場合があります。

登録

セットアップが完了すると、下記の画面が表示されます。

セットアップ結果

テナント (default) を作成し、作業テナントに設定しました。

処理結果	モジュールID	インポート種別	インポート対象名	エラーメッセージ
✓	im_javamail	EXTENSION	jp.co.intra_mart.system.mail.template.migration.MailTemplateMigrator	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_tenant_common/im_tenant_common-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_auth/im_auth-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_menu/im_menu-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_password_history/im_password_history-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_zh_CN.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_zh_CN.xml	-

注意

「[プロジェクトの作成とモジュールの選択](#)」で選択したモジュールによりウィザードのステップ数が異なります。

コラム

旧アップデート版における **テナント環境セットアップ** については、
[intra-mart Accel Platform 2013 Winter までのテナント環境セットアップ](#) を参照してください。

アンインストール

- この章では intra-mart Accel Platform に関わる全てのファイル、データのアンインストールを行います。
ミドルウェア製品等のアンインストールについては、同製品のマニュアルをご確認ください。

注意

バーチャルテナントによる複数テナント で作成した任意のテナントを削除する場合は、

項目

- WARファイルのアンデプロイ
- アプリケーションの削除
- Storage領域の削除
- ミドルウェア製品の削除

WARファイルのアンデプロイ

1. 以下のコマンドを実行してください。

Windowsの場合 (コマンド・プロンプトを起動)

```
> cd <%RESIN_HOME%>
> resin undeploy アプリケーション名 (<%RESIN_HOME%>/webapps配下に展開されたWARファイルと同名のディレクトリ名)
```

Linuxの場合

```
# <%RESIN_HOME%>/bin/resinctl undeploy アプリケーション名 (<%RESIN_HOME%>/webapps配下に展開されたwarファイルと同名のディレクトリ名)
```

2. アンデプロイ後、Resin を停止し以下のファイルを手動で削除してください。
必ず Resin を停止してからファイルを削除してください。Resin が起動した状態ではファイルが正常に削除されません。

```
<%RESIN_HOME%>/webapps 配下のWARファイルと同名のディレクトリ
```



コラム

マルチテナントをご利用の場合は、アンデプロイ対象のWARファイルに対してそれぞれ実行してください。



注意

WARファイルのアンデプロイには、Resin が起動している必要があります。

アプリケーションの削除

1. Resin 上に展開されている以下のファイル・ディレクトリを削除します。

```
<%RESIN_HOME%>/resin-data> 配下のファイル・ディレクトリ
```

```
<%RESIN_HOME%>/webapps> 配下のディレクトリ
```



注意

Resinが停止している必要があります。
停止方法については [Web Application Server の起動](#) を参照してください。

Storage領域の削除

1. <%STORAGE_PATH%> 配下のファイル・ディレクトリを削除します。
2. <%PUBLIC_STORAGE_PATH%> 配下のファイル・ディレクトリを削除します。

ミドルウェア製品の削除

- Resin
<%RESIN_HOME%> ディレクトリを削除します。
- データベース
ご利用の データベース のマニュアルを参照してください。
- Web Server
ご利用の Web Server のマニュアルを参照してください。

**注意**

静的ファイルを配置している <%WEB_PATH%> ディレクトリ配下のファイル・ディレクトリを削除します。

- Apache Cassandra

Apache Cassandra をセットアップしたディレクトリを削除します。

- Apache Solr

Apache Solr を動作している Web Application Server (Jetty 、 Resin 、 Tomcat) をセットアップしたディレクトリを削除します。

次は、「[はじめに](#)」へ進みます。